

研究タイトル：

日本近世和歌文学の研究



氏名：	加藤 弓枝 / KATO Yumie	E-mail：	katoyumi@toyota-ct.ac.jp
-----	--------------------	---------	--------------------------

職名：	准教授	学位：	博士(文学)
-----	-----	-----	--------

所属学会・協会：	日本近世文学会, 和歌文学会, 名古屋大学国語国文学会
----------	-----------------------------

キーワード：	日本近世文学, 和歌文学, 日本文化, 書誌学
--------	-------------------------

技術相談 提供可能技術：	<ul style="list-style-type: none"> ・日本古典籍目録作成 ・古文書の読解と解析 ・近世文学に関する出前授業や講演
-----------------	--

研究内容： 近世中後期における身分的境界領域の人々を中心とした越境的学術ネットワークの研究

■全体構想■

本研究「近世中後期における身分的境界領域の人々を中心とした越境的学術ネットワークの研究」は、身分的境界領域にいた人々(非蔵人・門跡関係者・坊官等)による、身分を超えた学術的交流を具体的に分析・検討することで、近世文学史・近世文化史への新たな視座を提示することを目的とする。

■内容■

身分的境界領域に位置する人々としては、例えば禁裏で雑務にあたっていた非蔵人(ひくろうど)がいる。彼らに関する資料を総合的に検証するためには、蘆庵文庫のみならず、古人の残した最大の文化遺産である資料群を、可能な限り博搜して関連資料を見出す必要がある。現在は、それらの書誌を収集してデータベースを作成するとともに、資料群の価値を学問的に位置付けている。特に現在は蘆庵文庫(京都市)等に所蔵される資料を考察するとともに、国立国会図書館を始めとする諸機関の調査を行い、その関連資料を整理検討した上で、具体的に以下のことに取り組んでいる。

【1】非蔵人データベースの作成

【2】近世中後期上方文壇における身分的境界領域層の略伝付人名一覧の作成

■本研究の特色■

本研究の特色・独創的な点は以下の3点である。まず第1点は、近世文学の特徴の1つである「文芸活動の集団性」の実態を、「越境的学術ネットワーク」という視点から具体的に明らかにする点である。従来の近世文学の研究は、作者の思想や伝記、作品の解釈が主な研究対象とされてきた。しかし、実際にどのような過程を経て、作品が作られてきたのか、その具体的な現場に関しては、必ずしも解明されていない。本研究を通して、前近代においていかなる学術交流のうへで作品が成り立ってきたのか、文化史的に明らかに出来るものと思われる。

第2点は、堂上・地下のいずれにも属さない中間的身分である非蔵人といった、境界の領域にあった人々の文芸活動に着目した点である。このような人々の文化史的な位置付けについては、いまだ研究の端緒が開かれたばかりである。彼らの学芸のありようは独特で、その解明は文学史に新たな一面を提示する可能性がある。

そして第3点は、膨大に残る原資料について、資料群ごとに悉皆調査を行うという、網羅的研究である点である。近世期については資料が多く存在することから、前近代の和歌文化を追究する上で、最も適した時代である。一方でその膨大さは研究を困難にもしている。しかしながら、困難な悉皆調査を行うことにより、判明することは大きい。また、適切にデータ化を進めることによって、人脈や作品制作過程について多くのことが解明できると期待される。

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	